

えろらー、かいらさ巖殿

第四十圖解説

えろらー(Erla)ハ、南印度ないざむ領内ノ小村ニシテ、有名ナルあうらんがー
ばーど窟殿ノ西北、約十三英里ニ在リ、此村ノ西半英里ニシテ一座ノ巖山ア
リ、其西崖ニ沿ヒ、一英里許ニ三十四個ノ窟殿アリ、其南部十三殿ハ佛教ニ屬
シ、中部十六殿ハ婆羅門教ニ屬シ、北部五殿ハ闍延教ニ屬セリ、佛教窟殿ハ最
モ古代ニ屬スル者ニシテ、西洋紀元三百五十年ヨリ五百五十年ノ間ニ成ル、
おしゆわかるまん殿どーん、たはーる殿、ちーん、たはーる殿ノ三最モ有名ニ
シテ斧痕雄麗ナリ、婆羅門教十六窟殿ハ、佛教窟殿ニ次テ成リ、かいらさ巖殿
ノ美ハ、天下ノ珍タリ、闍延教ノ窟殿ハ、婆羅門教窟殿ニ次テ成ル、小かいらさ
巖殿じや、がんなーとは、さばー窟殿ハ其魁ナリ、皆殿裡廣濶ニシテ、内外陣柱
梁椽壁ノ彫刻精巧ヲ極メタリ、此圖ハ所謂かいらさ巖殿ニシテ、中央小殿ノ
左壁ニ存スル七層ノ密刻ハ、有名ナル「まはーぶはらた」及「らーまやーな」ノ
二大詩史ヲ鑿出シタル者ニシテ、依テ以テ闍堂ノ結構ヲ想像スルニ足ラム、